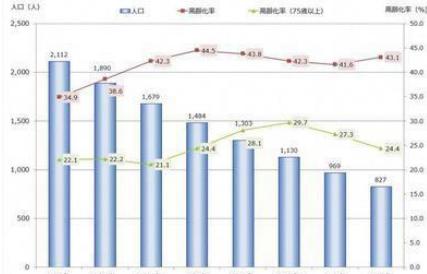


①須佐・窪田地区の現状 - 人口・拠点施設

- 担い手組織

★須佐地区の人口予測



須佐地区
人口：1970人（2017年住民基本台帳）
高齢化率：40.4%（〃）
商店：J A直営スーパー他3店舗
学校：須佐小学校
公共施設：市役所支所、ホール、体育館等
町の中心（反辺）と最長距離の集落：約10km

★窪田地区の人口予測



窪田地区
人口：1540人（2017年住民基本台帳）
高齢化率：41.3%（〃）
商店：3店舗
学校：窪田小学校、佐田中学校
公共施設：飯の原農村公園
町の中心（反辺）と最長距離の集落：約13km

- H15年度末 佐田地域内に13振興協議会設立
 - H17年4月 佐田自治協会設立（構成：13振興協議会）
- 各振興協議会毎に、福祉、特産品開発、交流事業などを実施
平成23年度2月に、「佐田地域まちづくり計画（平成24～28年度）」を策定
テーマ 文化・産業と健康・福祉の住みよい環境づくり
- コミュニティ活動の推進
 - 産業振興、若者定住の推進
 - 福祉、健康、子育て支援、防災による安心のまちづくり
- 佐田地域まちづくり計画（平成24～28年度）で挙げられた取組みのうち、
- 実践できた計画
営農集団参画・連携の「未来サポート佐田」組織化による6次産業化の推進
 - 自主防災組織活動 など

②須佐・窪田地区の課題

- ❑ 各振興協議会活動に対する意識・意欲が低下し、役員のなり手不足、活動の継続及び地域課題への取組がされていない。
- ❑ 住民自治組織が重層化しており、互いの役割を確認し、行政、コミュニティセンターとの連携軸の構築が必要である。

③支援状況・・佐田地域（須佐・窪田）を一体として展開した。

機運醸成・人材育成

- (1) 佐田自治協会での啓発、研修会
- (2) 窪田地区リーダー養成講座
窪田コミセン事業への支援
- (3) 法人広報誌での事業紹介

計画・体制づくり

- (1) 佐田自治協会での「小さな拠点づくり」取組開始に向けての支援

実践活動

- (1) 橋波地区での地域計画づくり支援
- (2) 窪田若者未来塾の活動支援
・マルシェによる集いの場創出
- (3) 13振興協議会での説明
- (4) 関係機関（出雲市、コミセン、自治協会）との情報共有



④成果見込み

(1) 体制づくり：

- 佐田自治協会内に「小さな拠点づくり」への関心も現れはじめ、今後、佐田地域一体となった推進策など体制づくりが期待される。
- 窪田地区若者による交流活動等が具体化する。

(2) 計画づくり：

- 地域計画づくりに意欲のある地区から取組を開始する。

(3) 実践活動：

- 佐田自治協会での取組：役員を中心に取組への理解が深まり、研修会などへの参加が高まった。
- 窪田若者未来塾支援：定期的なマルシェ開催が開始された。

⑤残る課題

- (1) 佐田自治協会全体での啓発に努め、専門委員会の効果的活動を構築する。
- (2) 住民自治運営組織のあり方を構築する。
- (3) 「リーダー養成講座」を効果的に実施する。
- (4) 佐田自治協会事業と法人の支援事業の事業内容等を明確化する。
- (5) 関係機関との情報共有を強固にする。

須佐・窪田地区における小さな拠点づくり
= 意識変革による持続可能な地域づくりとは？

【自治協会】

- 組織構造・振興協議会領域の見直し
- 啓発活動の充実

【生活支援】

- 買い物・医療機関等への移動支援
- 身近ないす場での高齢者等集いの場の創出

【地域産業】

- 小人数による雇用の場
- 「未来サポートさだ」を基軸とする6次産業化の推進

この取組みがまだ弱い

平成30年度では佐田自治協会と「小さな拠点づくり」が効果的に機能するための密な検討が必要とされている。

出雲市と「小さな拠点づくり」について協議・連携をより深めていく。

総括

佐田自治協会を核として、地域計画づくりなどを推進し、各施設・機関の「拠点機能」を明確化にしていく。

⇒各振興協議会単位で、地域計画づくりを進め、佐田地域全体のビジョンが描けるように、啓発、計画づくり支援を強めていく。

⇒自治協会のみでなく、若者・女性グループでローカルビジネスが展開できるように協働していく。